

「絆の作り手育成プログラム研究指定校」実績報告書（3年次）

1 学校名等

学 校 名	宇治市立宇治小学校							校長名	安田 善一
所 在 地	〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割27番地 電話 0774-39-9143 FAX 0774-39-9146								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合 計	教職員数
学 級 数	4	4	4	4	4	4	3	27	43 ※校長・教頭を含む
児 童 数	104	116	111	116	127	127	14	715	
連 携 先 (文化財所有者等)	黄檗山 萬福寺								

2 研究校の概要

本校は、平成24年度に開校した施設一体型小中一貫校で、今年度の児童生徒数は宇治小学校715名、黄檗中学校352名、合計1067名である。

令和3年度からは、地域の文化財所有者である「黄檗山萬福寺」と連携し「絆の作り手育成プログラム」に取り組んでいる。

令和2年度、令和3年度と黄檗中学校で「未来の担い手育成プログラム」に取り組み、両校種とも京都府教育委員会研究校に位置付くことで、義務教育9年間を通じた課題解決型の学習を手段とした認知能力と非認知能力の一体的な育成を系統的に推進することに着手することができた。

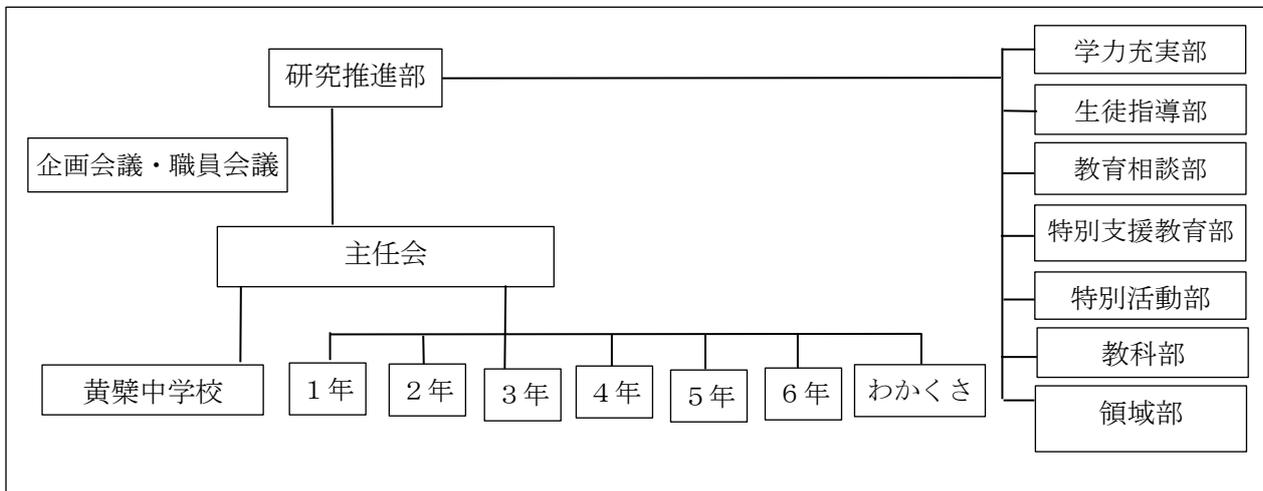
【認知能力の実態】

「全国学力・学習状況調査」や「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」の結果は、どの教科も全国・府平均と同程度か、若干下回り定着に課題が見られる。特に、国語科における「書き表す力」「読み取る力」に課題が見られ、資料を読むことを通して学んだ読み方を生かし、複数の文章を基に必要な情報を集め、報告する相手を意識してまとめることができるようにする指導に力を入れていく必要がある。

【非認知能力の実態】

異学年の交流が自然な形で行われ、小・中学校での9年間を同一集団で過ごすことで、安心感と他者理解が進み、素直さや優しさを持ち、男女の仲もよく、誰とでも抵抗なくコミュニケーションを図ったり自分の考えを表現したりすることができる。一方、「全国学力・学習状況調査」や「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」の質問調査の結果から、特に「自己調整」「思考の柔軟性」に関する設問について否定的に答えた児童の割合が高い傾向が見られ、非認知能力の中でも人と関わる力よりも自分に関する力の育成を継続していかなければならない。

【研究体制】



### 3 主な研究活動

#### (1) 研究テーマ

「文化財所有者の課題を解決し、認知能力と非認知能力を一体的に育む教育の展開」  
～身に付けさせたい力を明確にし、系統的な郷土学習と PBL に繋がる授業改善を通して～

#### (2) 主な研修会等

- 4月 フィールドワーク（萬福寺）
- 4月11日（火） 校内研修会①
- 5月1日（月） 京都府教育委員会、山城教育局、宇治市教委育委員会との打ち合わせ
- 6月2日（金） 絆の作り手育成プログラム研究校に係る実践交流会（オンライン）
- 8月24日（木） 校内研修会②
- 10月～11月 萬福寺での活動
- 2月2日（金） 『萬福寺ええとこ祭』(京都府スクールミーティングでの授業参観と研究報告)
- 2月22日（木） 絆の作り手育成プログラム研究校 Web 交流会

#### ◆ ツアーガイド体験



#### ◆ クイズラリー開催



#### ◆ チラシ作成

#### ◆ 普茶料理の試食会



(3) 系統的な「宇治学(総合的な学習の時間)」単元計画の作成

- 1年 「萬福寺界限で『秋見つけ』をしよう」  
【生活科】あきと なかよし
- 2年 「萬福寺をたんけんしよう」  
【生活科】もっと 知りたい たんけんたい
- 3年 「隠元禅師とともに伝来した煎茶の文化を学ぼう」  
【宇治学】「『宇治茶』のステキをつたえよう」
- 4年 「巨椋池のハス、萬福寺のハス」  
【宇治学】「『ふるさと宇治』の自然を伝えよう」
- 5年 「隠元禅師とともに伝来した新食材、普茶料理、食事形態について学ぼう」  
【宇治学】「『ふるさと宇治』をすべての人にやさしいまちに」
- 6年 「萬福寺学 ～文化財や地域の良さを再発見～」  
【宇治学】「『ふるさと宇治』の魅力大発信」

#### 4 今年度の研究の成果と検証

(1) 探究的な学びにするための学習過程の工夫について

- ア 「探究」をキーワードにした授業づくりを校内で共通認識し、低学年は生活科を通して、中学年以降社会科との関連を図りながら郷土学習を切り口とした宇治学(総合的な学習の時間)を核にして、児童が主体的に学習に取り組む態度を育成できるよう取り組んできた。特に、総合的な学習の時間の中で宇治ならではの特色を踏まえ、第3学年で「宇治茶と茶文化」を、第4学年で「宇治の自然環境や生活環境」を、第5学年で「地域福祉・ノーマライゼーション社会」を、第6学年で「地域のよさや歴史・観光」を学習対象とし、さらに中学校での学習を見定めながら系統的・計画的に指導を進めることができた。
- イ 課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現の学習過程を繰り返すことで児童の目的意識、相手意識、内容意識、方法意識がより確かなものになっていった。また、学習の振り返りによって、新たな発見、疑問、さらに調べたいことの発見につながった。
- ウ 1年間学習を進めていく中で児童自らが成果と課題を分析し、自分たちの取組を地域の方々へ広めていくことで、少しずつ自信を付けていくことができ、児童の自己肯定感の向上につながったことがうかがえる。

(2) 協働的な学びをつくるためのグループ交流の工夫について

- ア 他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析しまとめたり表現したりする学習活動を行う際、比較する、分類する、関連付ける等の思考を深めるための技法を活用することができた。
- イ 課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現のそれぞれの場面で活用できる思考ツールを、学習内容や児童実態に応じて様々に活用した。
- ウ ソーシャルスキル・トレーニングを活用する中で、表現力やコミュニケーション能力の向上につながることができた。

(3) 学習素材に関わる専門家の人々と関わる工夫について

- ア 児童がこれまでに積み重ねた学びをもとに、さらに関心をもって学習素材に関わっている人々との関わりを通して思いや願いに触れていき、市の観光企画課に協力していただきながら協働的な探究活動が展開できた。
- イ 学校から徒歩で短時間移動できる文化財所有者を連携の対象にしたおかげで、専門家との度重なるやり取り、実際に足を運び納得や実感を伴った直接体験を繰り返しながら、児童が地域のよさに気付き、地域への誇りと愛着を感じ取ることができた。

(4) 考えたこと、伝えたいことの発信の工夫について

- ア 整理・分析の探究過程でわかったことなどを表現していく段階で、調べたことをもとに、思考

ツールなどを使って、整理・分析することができた。(クラス・グループなど)

イ 考えたことを様々な立場の人に見てもらうことで、さらに改善していくことができた。

ウ ①学級内でのグループ発表、②学年での発表、③他学年への発表、④中学生への発表、⑤保護者や地域、文化財所有者、行政への発表とステップアップする計画を立てることができた。

## 5 今年度の課題

- (1) アンケートを学習の最初と最後に行ったが、児童の変化を数値化することができなかった。
- (2) 「連携先である文化財所有者の抱える課題に対する解決策を考え実行し地域に貢献する」という本事業の趣旨からすると、課題をどのように選定するかが重要であり、連携文化財所有者と学校が十分に協議し課題を決定する必要がある。

さらには、そこから解決策を練る段階で児童が主体的に解決に向けて活動すること、最終的な発信に向けてリフレクションをしながら何度も練り直しブラッシュアップするPDCAサイクルの繰り返しが必要であり、1つの課題に対して年間を通して取り組む計画性が指導者側に求められる。

- (3) 令和5年度の全国学力状況調査の結果からみて、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のどの力も京都府の平均を下回っている。

また、質問紙の結果から「学校楽しいと思える」という項目が、全国81.8%に対し、本校(学園全体)68.0%と10%程度低い現状がある。これらのことから、引き続きPBLに繋がる授業改善を通して認知能力と非認知能力の向上を目指す。

## 6 事業終了後の研究構想

- (1) 課題解決型の学習(Project Based Learning)を手段とした認知能力と非認知能力の一体的な育成を図る。
- (2) 各教科等での課題解決型の学習をさらに進める。
- (3) 小中一貫校であるため、9年間を見通した『宇治学』のカリキュラムの完成と引継ぎ・共有をする。また、学校に通い続けられる3つの要因「学校・学級への所属感」「友人・対人関係」「学業」を、課題解決型学習の手法を取り入れることで高めていくことを目指す。



# 本校の研究の概要



課題解決型学習を手法とした、  
認知能力、非認知能力の  
一体的な育成





宇治市立宇治小学校 目指す児童像

自分たちにとって大切な「黄檗山萬福寺」の課題を解決するために探究する児童



# 課題解決型学習

# 萬福寺学

自分たちにとって大切な「黄檗山萬福寺」の課題を解決するために探究する児童

# 萬福寺学

地域の文化遺産である黄檗山萬福寺を  
「自分たちの萬福寺」にする学習

解決する



わたしたちにとって大切な萬福寺！  
自分たちがやらずに誰がやる！

思い出  
をもつ



わたしたちの学校の近くにある  
萬福寺ってけっこうすごいぞ！

きづく



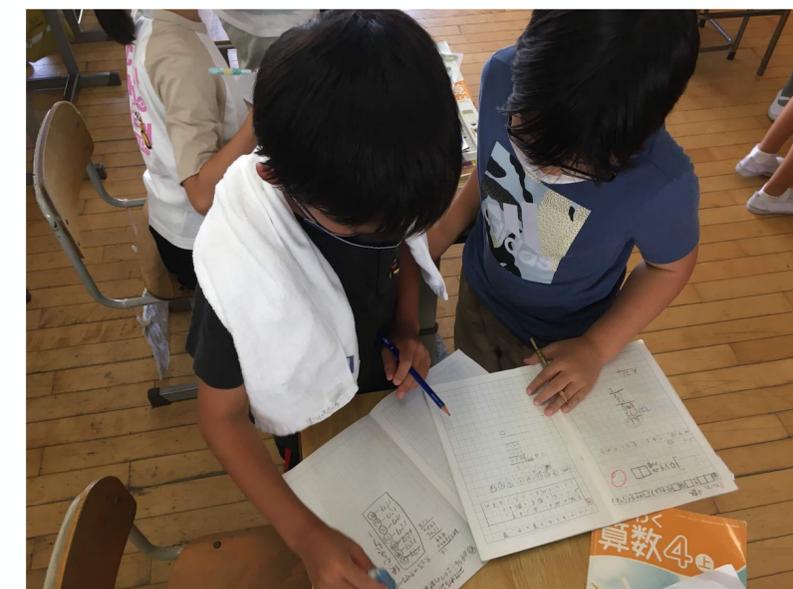
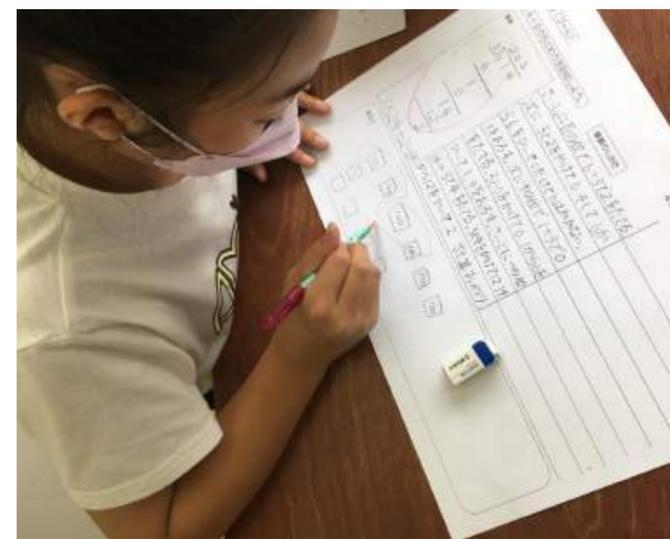
わたしたちの学校の近くに、  
有名な文化遺産があるんだ！





# わたしたちの萬福寺！





# 課題解決型学習

各教科等の学びにおいて、課題解決型学習を手法とし、認知能力、非認知能力を一体的に育成する

# 探究をキーワードにした宇治小学校の授業づくり

宇治小学校が目指す授業



子どもたちは遊ぶとき、時間を忘れて没頭します。

子どもたちは遊ぶとき、自分で選択したり、自分で判断したりします。



子どもたちは遊ぶとき、自然に誰かとつながります。

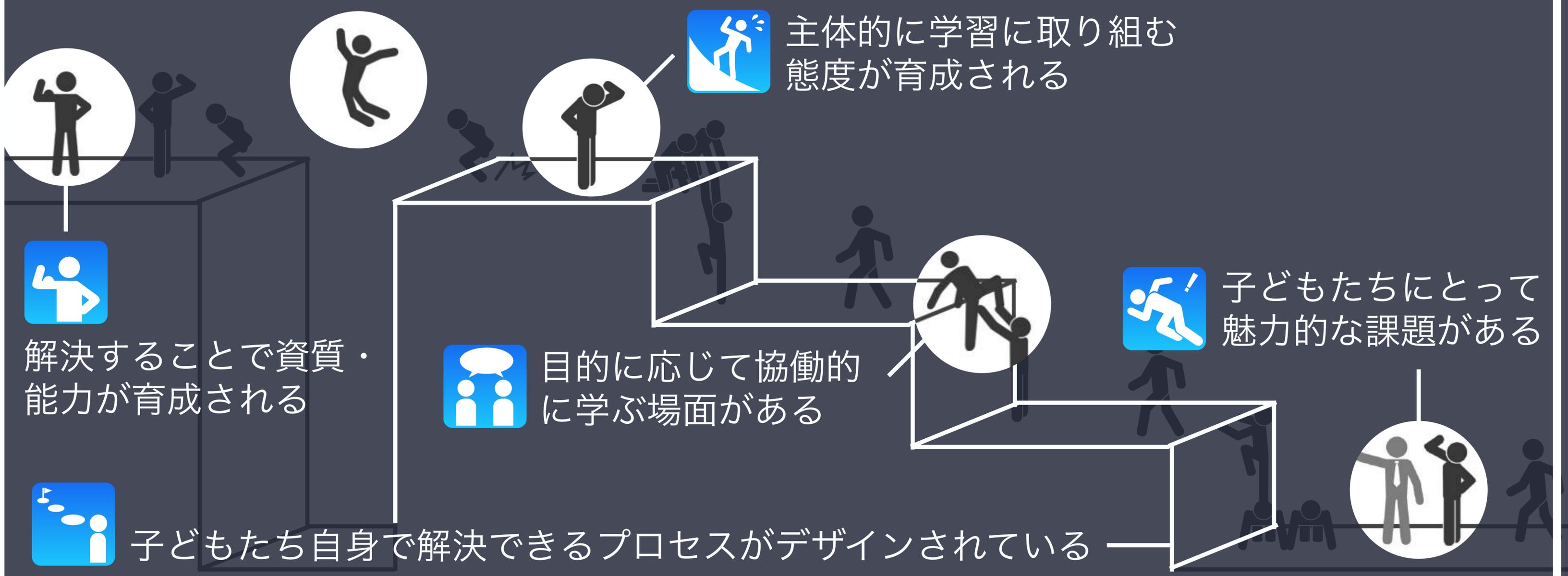
子どもたちは遊ぶとき、多少の困難があっても工夫して乗り越えていきます。



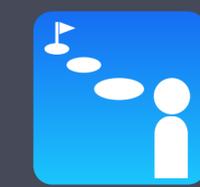
子どもたちは遊ぶとき、時に大人の想像を超えるような姿を見せます。

宇治小学校では、子どもたちが遊ぶように学んでいく、そんな授業を目指します。

宇治市立宇治小学校の考える授業作り



解決することで資質・能力が育成される



子どもたち自身で解決できるプロセスがデザインされている



主体的に学習に取り組む態度が育成される



目的に応じて協働的に学ぶ場面がある



子どもたちにとって魅力的な課題がある



# 探究をキーワードにした宇治小学校の授業づくり

子どもたちは遊ぶとき、時間を忘れて没頭します。

子どもたちは遊ぶとき、自分で選択したり、自分で判断したりします。

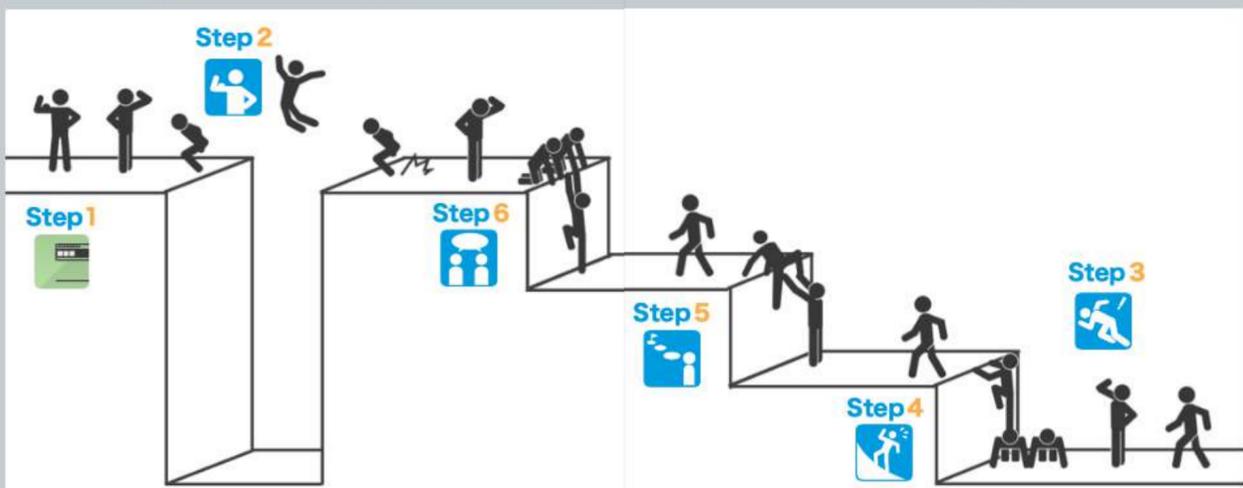
子どもたちは遊ぶとき、自然に誰かとつながります。

子どもたちは遊ぶとき、多少の困難があっても工夫して乗り越えていきます。

子どもたちは遊ぶとき、時に大人の想像を超えるような姿を見せます。

宇治小学校では、子どもたちが遊ぶように学んでいく、そんな授業を目指します。

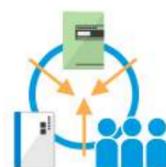
子どもたちが「遊ぶように学んでいく」授業をデザインするための6つのステップ



<p><b>Step 1</b> 学習指導要領を参照</p> <p>授業をデザインする際は、まずは学習指導要領の目標及び内容を参照して、その単元で育成すべき資質・能力を明確にしましょう。</p>	<p><b>Step 2</b> ゴールを児童の姿で具体的にデザイン</p> <p>学級の児童の姿を浮かべながら、資質・能力が育成された児童の姿を、行動レベルまで具体的にイメージしましょう。</p>	<p><b>Step 3</b> 児童にとって魅力的な導入をデザイン</p> <p>児童が「やってみたい!」「やらなければ!」「できそう!」と思えるような導入のしかけを工夫しましょう。</p>
<p><b>Step 4</b> 主体的に学習に取り組む態度をデザイン</p> <p>ゴールを達成するために、どのような態度で臨めばよいかを考え、主体的に学習に取り組む態度を位置付けましょう。</p>	<p><b>Step 5</b> ゴールに必要なステップをデザイン</p> <p>ゴールを示すだけで「何をすればいいのかわからない」までは分かりません。ゴールするために必要なステップを計画しましょう。</p>	<p><b>Step 6</b> 「個別最適」「協働的」な学びをデザイン</p> <p>ゴールするための効果的な学びを、「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点でデザインしていきましょう。</p>

## Step 1 学習指導要領を参照して、育成したい資質・能力を明確にする

育成したい資質・能力を絞り込む!



学習指導要領を参照して、育成すべき資質・能力を確認する際は、育成したい資質・能力を絞り込みましょう。欲張りすぎると実現可能性が下がります。当該単元で育成したい資質・能力を、教材の特徴や配当時間数、学級の児童の実態等を踏まえて絞り込んでいきましょう。

学習指導要領の内容は、縦と横に読む!



「横に読む」とは同じ学年の内容を横断的に読んでみるということです。教科によって書き方が異なりますが、内容を横に読むことで学習過程やその学年で大切にしたいことなどが見えてきます。「縦に読む」とは前後の学年と比較しながら読むということです。内容を縦に読むことでその学年で指導しなければいけないことがより明確に見えてきます。

## Step 2 ゴールを児童の姿で具体的にデザインする

行動レベルまで具体的にイメージをする!



育成したい資質・能力を絞り込んだら、その資質・能力が育成された児童の姿を、行動レベルまで具体的にイメージしましょう。ここで大切なのは曖昧にしないこと。誰が見ても到達しているかどうか分かるレベルまで具体的にしましょう。具体的にイメージできればできるほど、その姿を実現するためのプランが見えてきます。

3つのフォーマットで評価規準を描く!



「思考・判断・表現」の観点については、次の3つのフォーマットで評価規準を描きましょう。

- ▶ 「～について、～において」(学習対象・学習場面)
- ▶ 「～しながら、～して」(資質・能力の具体)
- ▶ 「～している」(子どもの行為)

出典『学習評価』田村学(東洋館出版社)

## Step 3 児童にとって魅力的な導入をデザインする

「憧れ・可能性」をもたせて「やってみたい!」を引き出す



児童が「やってみたい!」「その状況に近づきたい!」と思えるように、「憧れ」や「可能性」を感じさせるような工夫をしましょう。

「矛盾・違和感」をもたせて「やらなければ!」を引き出す



児童が「やらなければ!」「なんとかしないと!」と思えるように、「矛盾」や「違和感」を感じさせるような工夫をしましょう。

「見通し」をもたせて「できそう!」を引き出す



児童が「できそうだ!」「これを使えばなんとかなりそう!」と思えるように、「見通し」をもたせたり、これまでの学習を整理したりするなどの工夫をしましょう。

## Step 4 主体的に学習に取り組む態度をデザインする

「ゴールするためにはどのような態度で臨めばよいか」と考える



ゴールに到達するために「子どもたちに期待したい態度」を言葉にしてみましょう。子どもたちの立場から「自分たちでゴールするためには…」と考えることが大切です。

単元の中で「主体的に学習に取り組む態度」を育成する計画を立てる



「主体的に学習に取り組む態度」がイメージできたら、どのように育成するかを考えましょう。「教え込む」というイメージではなく「どう環境を整えればよいか」というイメージで考えていくといでしょう。

## Step 5 ゴールに必要なステップをデザインする

ゴールするために必要な知識を洗い出す



国語科なら教材文を読んで叙述に線を引く、社会科なら教科書を読んで大切なキーワードに線を引くというように、ゴールするために必要な知識をどんどん洗い出していきます。

それらの知識を「どうつなげればよいか」を明らかにする



洗い出した知識を「どう教えればよいか」ではなく、子どもたち自身が「どうつなげればよいか」と考えましょう。「比較することで特徴を捉える」「関連付けることで文脈を捉える」など、どう考えればよいかを明らかにしましょう。

## Step 6 「個別最適な学び」「協働的な学び」をデザインする

ICTを活用してみる



ICTには「大量の情報を収集、蓄積できること」「時間的、空間的制約を超えること」「距離に関わりなく、双方向性を有すること」といった強みがあります。効果的に活用することで、探究の可能性は大きく広がります。

話し合いの着地点をイメージしてみる

話し合いをデザインする際は、「特定の正解はないが、他者の考えから自分の考えを広げるため」「絶対解を見つけるため」「最適解を決めるため」「納得解を見出すため」というように話し合いの着地点をイメージしてみましょう。それによって教師のファシリテートの仕方も変わってきます。



# 萬福寺学

地域の文化遺産である黄檗山萬福寺を  
「自分たちの萬福寺」にする学習



自分たちにとって大切な「黄檗山萬福寺」の  
課題を解決するために探究する児童



## 課題解決型学習

各教科等の学びにおいて、課題解決型学習を手法とし、認知能力、非認知能力を一体的に育成する

# 1 単元の目標

地域の文化遺産「萬福寺」の継承に力を注ぐ人々と協働して「萬福寺」のよさを伝える活動を通して、自分が住む地域で受け継がれてきた文化遺産のよさに気づき、地域の発展を願って自分にできることを考え、地域の文化遺産の継承に積極的に関わることができる。

## 2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①地域の文化遺産である萬福寺には、独自の特徴があることを理解するとともに、その文化遺産を後世に残していこうと活動を続けている人の思いに気付いている。	①地域の文化遺産である萬福寺について、理想との隔たりから課題を設定し、解決に向けて自分にできることを具体的に考えている。	①地域の文化遺産である萬福寺に関心をもち、自分の考えを見つめ直しながら、自分の意思で課題を解決しようとしている。
	②萬福寺に関わる実態調査を、相手や目的に応じた方法で実施している。	②実態調査やその際の質問について、必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めている。	②地域の文化遺産の継承のために、萬福寺の方や友達の考えを生かしながら、協働して課題の解決に向けて取り組もうとしている。
	③地域の文化遺産に対する意識の高まりは、地域の人、もの、ことに関わりながら探究的に学んだことによる成果であると気付いている。	③地域の文化遺産を継承するために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。	③自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考え、前向きに解決策を探りながら取り組もうとしている。
		④地域の伝統文化の継承に向けた自分の考えを、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。	

## 3 指導と評価の計画 (50時間)

小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 萬福寺の特徴について理解し、その良さや価値を実感しよう。(10)	○昨年度の6年生の取組から、解決に向けた今後の活動への見直しをもつ。	①			・比較検討シート
	○萬福寺には他の寺院にはない特徴があることを理解する。 ・萬福寺の方からの情報収集 ・萬福寺の特徴に気付くための体験(中国様式、普茶料理、座禅体験等) ・萬福寺と他の寺院を比較・検討する。				
2 萬福寺の実態調査を通して、問題点の解決策を探ろう。(5)	○萬福寺の特徴についてポスターにまとめ、グループごとにポスターセッションを行うことで萬福寺には他の寺院にはない特徴があることを理解する。		①		・振り返りカード
	○萬福寺に関する実態調査を行うために、対象ごと(地域の方、宇治市の方、京都府の方)に質問項目や調査方法を検討する。	②			・実態調査シート
	○萬福寺に関する実態調査を行う。	②			・実態調査シート
3 「宇治と言えば『萬福寺』」にすることを決定しよう。(10)	○「価値ある萬福寺」という理想と、「認知度が低い」という隔たりから課題を設定し、自分にできることを具体的に考える。		①		・振り返りカード
	○課題を解決するための情報を収集し、今の自分たちにできることを根拠を明らかにして決定する。 ・萬福寺に関わる実態調査 ・萬福寺と平等院を比較するための平等院の見学 ・宇治市観光協会の方からの情報収集 ・萬福寺の方との連携会議		③		・行動観察 ・課題解決カード
4 魅力的なイベントを協力して準備し、実行しよう。(10)(20)	○イベントを知らせるために、相手や目的を意識して情報発信をする。 ○魅力的なイベントの開催に向けて、友達と協力して準備し、実行に移す。 ○イベントの成果と課題について、追調査を通して明らかにする。			②	・行動観察 ・課題解決カード
<del>5 より魅力的なイベントを協力して準備し、実行しよう。(10)</del>	<del>○前回の経験をもとに、課題を解決するためにより良い方法を検討し、実行に移す。</del>			③	<del>・行動観察 ・課題解決カード</del>
6 学習全体を振り返り、自己の成長や学びの価値、今後の展望について、5年生に継承しよう。(5)	○これまでの学習全体を振り返り、自身の地域の文化遺産に対する意識の変容を振り返る。	③			・振り返りカード
	○これまでの学習全体を振り返り、成果と課題、今後の展望を明らかにして5年生にプレゼンテーションで伝える。		④	③	・プレゼンテーション



自分たちで直接萬福寺の魅力を伝えよう！

イベントの成果と課題を分析してさらなる課題を設定しよう！

萬福寺の魅力を伝えるために何とかしないと！！

私たちの身近にある萬福寺って結構すごいんだ！！

### まとめ・表現

気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する



### 課題の設定

体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ



### 情報の収集

必要な情報を取り出したり収集したりする



### 整理・分析

収集した情報を、整理したり分析したりして思考する













萬福寺の魅力を伝えるために  
何とかしないと！！



### まとめ・表現

気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する



### 課題の設定

体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ



### 情報の収集

必要な情報を取り出したり収集したりする



### 整理・分析

収集した情報を、整理したり分析したりして思考する





平等院  
10円硬貨でおなじみの世界遺産



黄檗山 萬福寺





なんで  
観光客に人気の? <sup>の?</sup>

# 平等院を調査!



## 👁️ 見学をしてわかったこと

- ・ 萬福寺よりも観光客が多い
- ・ 周りにお店などがあるにぎやか
- ・ 外国の方が多く来ている
- ・ 若い人は修学旅行の学生が多い
- ・ 観ておわるルートがあった
- ・ 売店があった。博物館みたい。

- ・ 萬福寺に行くための  
ある人はあまりいない。
- ・ この前後に萬福寺に  
行く予定もない。
- ・ 萬福寺のことは知っていても場所が  
分からない。どこがすばいのかまでは  
知らない。

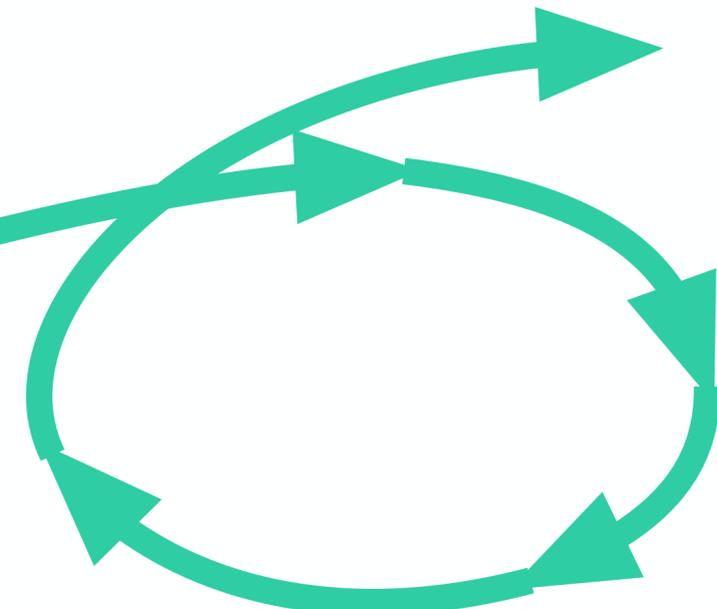
## 👂 インタビューをしてわかったこと







自分たちで直接萬福寺の魅力を伝えよう！



**まとめ・表現**  
気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する



**課題の設定**  
体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ



**情報の収集**  
必要な情報を取り出したり収集したりする



**整理・分析**  
収集した情報を、整理したり分析したりして思考する

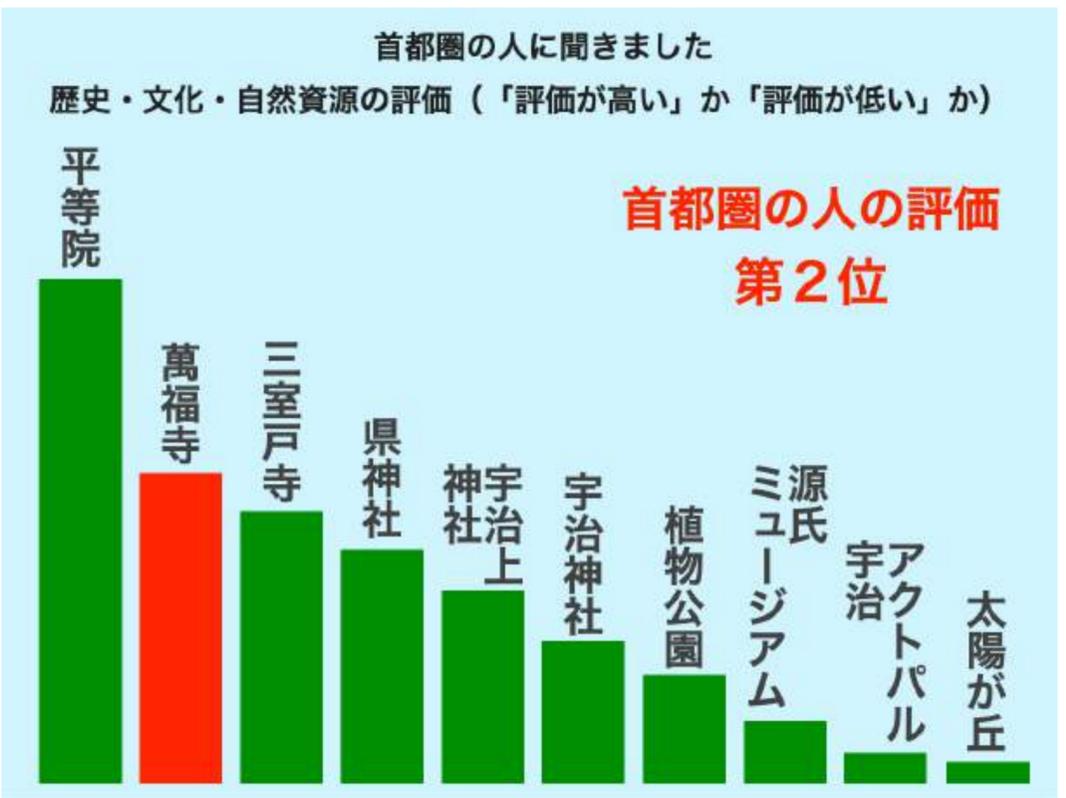
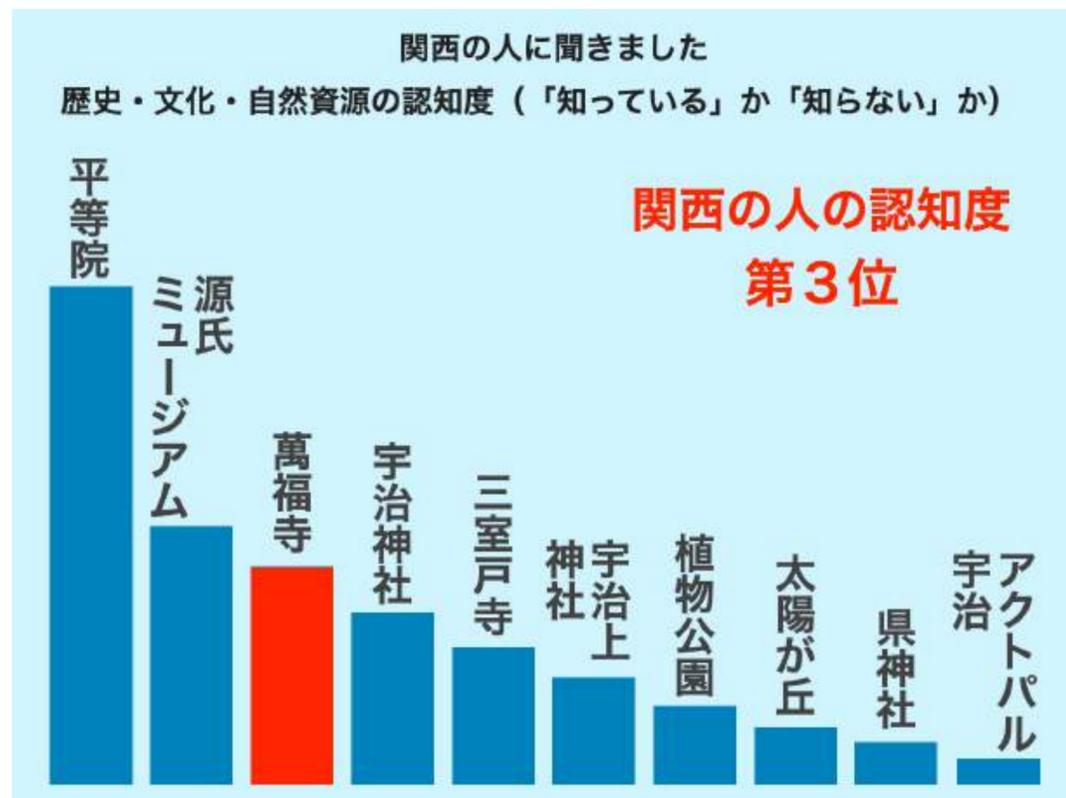
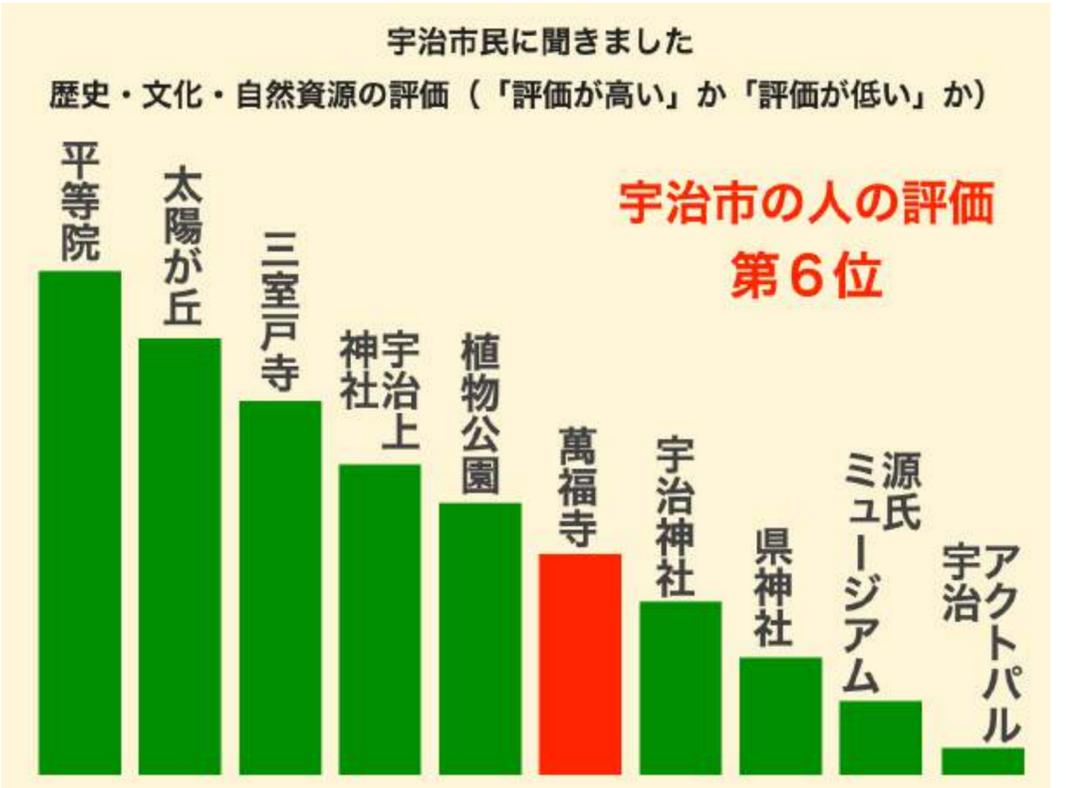
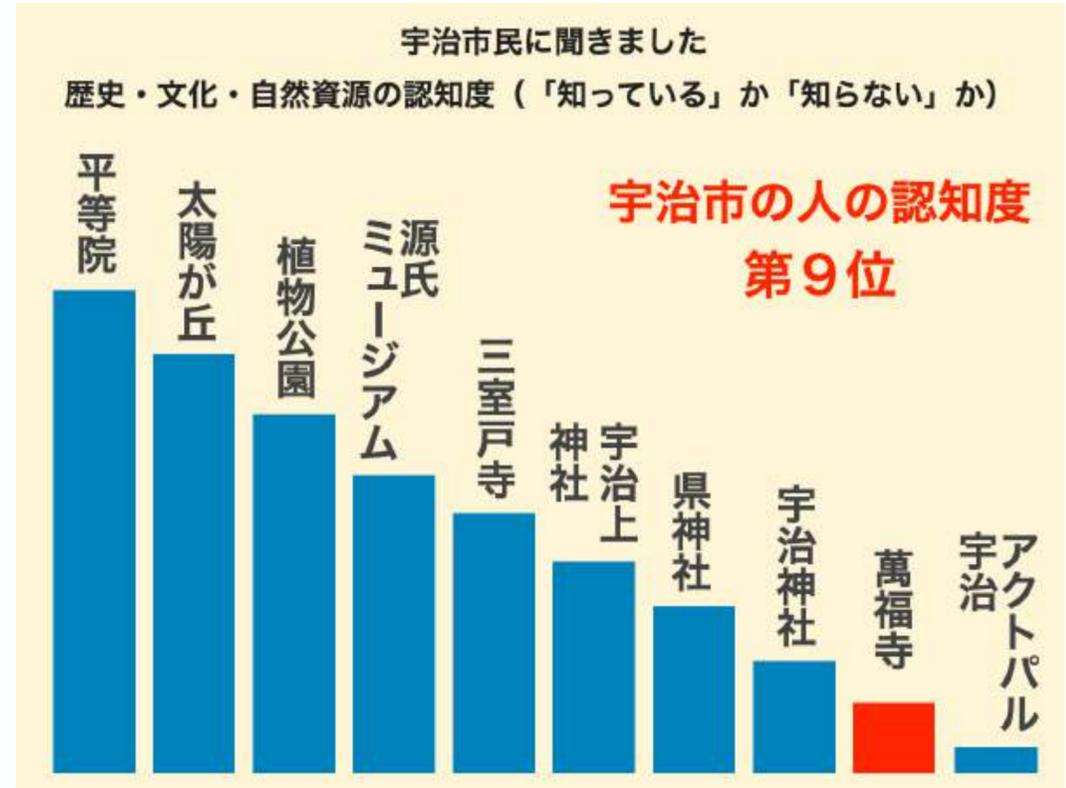
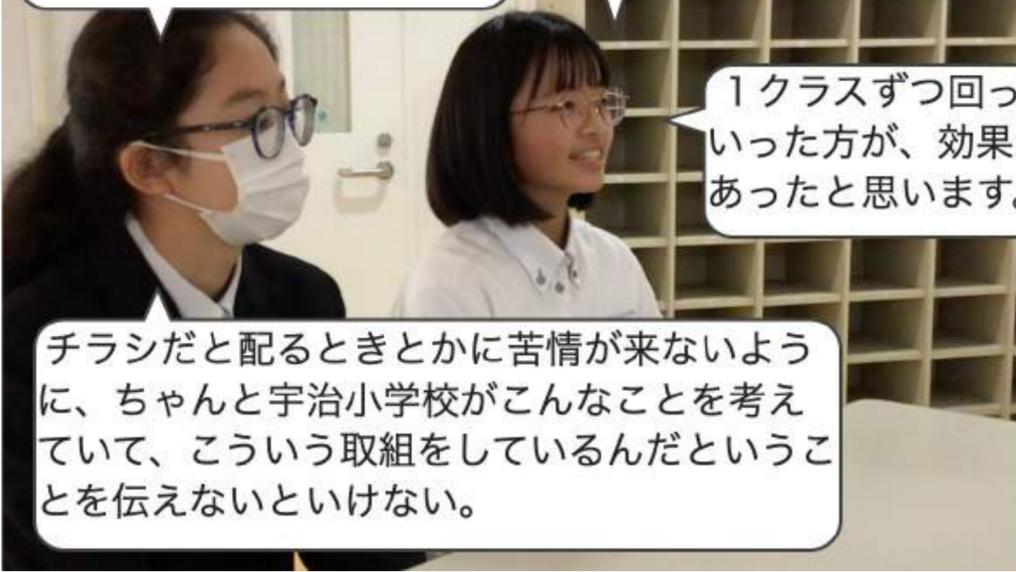


小学校の全クラスにも配った。小学校の人たちはいっぱい来てくれたかなと思います。

チラシを帰り道とかに地域の家のポストに配ったんです。それは結果、次の日に苦情がたくさん来て良くなかったと思います。

1クラスずつ回っていった方が、効果があったと思います。

チラシだと配るときとかに苦情が来ないように、ちゃんと宇治小学校がこんなことを考えていて、こういう取組をしているんだということを伝えないといけない。



# 私たちの 萬福寺を有名にするプロジェクト

「有名になるってどういうこと？」  
○ 力を知らせてもらう  
○ たくさん来てもらう

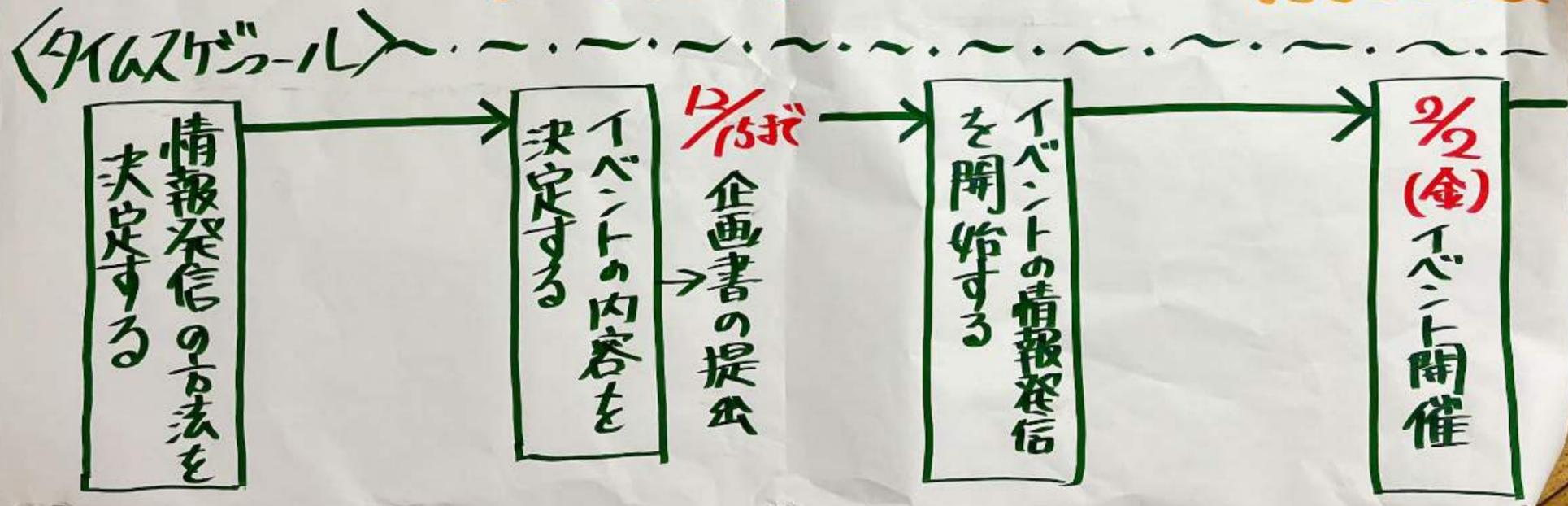
① 情報を発信する → ② イベントを開催して来客に発信してもらう

直接会って、自分たちの気持ちを伝えながら渡す！

ぜひたくさんの人に来てもらうこと！  
イベント来客が少なければ発信力が減る  
イベント来客が増えれば増えるほど  
発信する人が増える → 目的達成に近づく！

ぜひたくさんの人に発信  
たくさんの人に萬福寺の魅力を  
たくさんの人に発信してもらう  
方法や内容を考える → 目的達成に近づく！

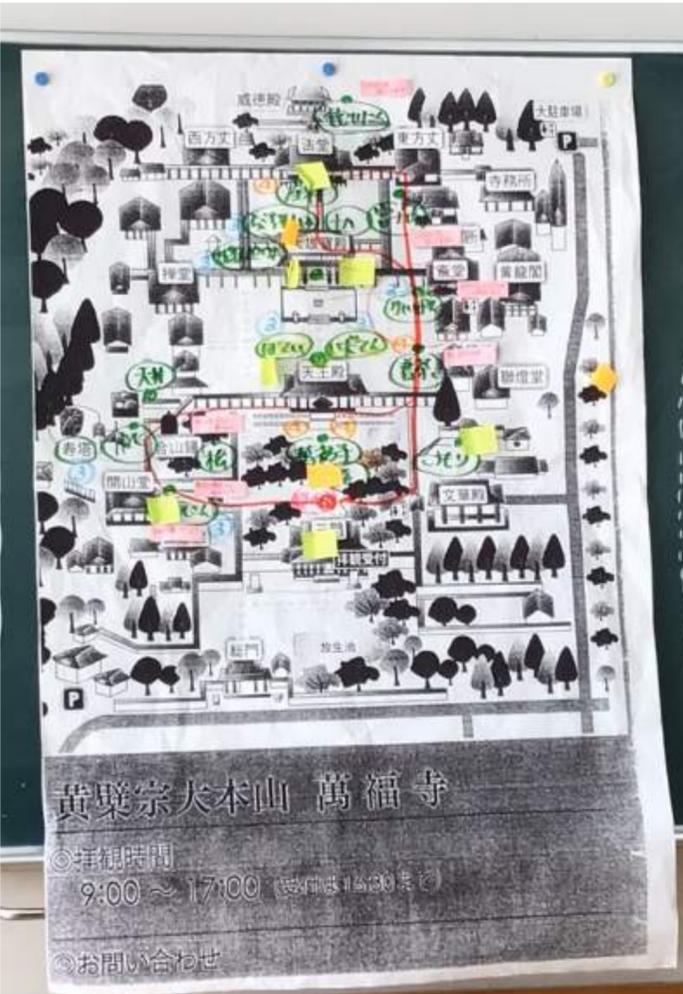
自分たちの言葉で萬福寺の魅力を直接伝える！











○ 開山堂 (いんげんざん) いんげんざん  
 ↓  
 ○ 天王殿 (てんわうだん) てんわうだん  
 ↓  
 ○ 齋堂 (さいだう) さいだう (普茶料理) うしや  
 ↓  
 ○ 大雄寶殿 (だいゆうぼうだん) だいゆうぼうだん  
 ↓  
 ○ 東方丈の前 (とうほうじょうのまえ) とうほうじょうのまえ 毘盧 (びる)

30分  
 体育  
 社会  
 算数  
 総合  
 国語  
 音楽

黄檗宗大本山 萬福寺  
 ◎拝観時間  
 9:00 ~ 17:00 (受付は16:30まで)  
 ◎お問い合わせ





イベントの成果と課題を分析してさらなる課題を設定しよう！



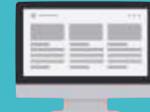
**まとめ・表現**  
気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する



**課題の設定**  
体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ



**情報の収集**  
必要な情報を取り出したり収集したりする



**整理・分析**  
収集した情報を、整理したり分析したりして思考する



## 成果

- 児童の思いをつなげることで、主体的に学習に取り組む児童の姿が見られた。
- 教職員の授業づくりのイメージが明確になった。
- 教職員間での授業改善への意識が前向きになった。

## 課題

- より本気になって学ぶ児童の育成のために、今後も継続した取組が必要である。
- 「宇治学」の考え方を踏まえ、児童の実態や教員の願いに応じて年間計画を更新していく必要がある。
- 小中一貫校として、小中の研究をつないでいく必要がある。

単元名  
「宇治といえば『萬福寺』」へ！

内容のまとめり  
「伝統文化」（全50時間）  
地域の文化遺産とその継承に力を注ぐ人々

### 1 単元の目標

地域の文化遺産「萬福寺」の継承に力を注ぐ人々と協働して「萬福寺」のよさを伝える活動を通して、自分が住む地域で受け継がれてきた文化遺産のよさに気づき、地域の発展を願って自分にできることを考え、地域の文化遺産の継承に積極的に関わることができる。

### 2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>①地域の文化遺産である萬福寺には、独自の特徴があることを理解するとともに、その文化遺産を後世に残していこうと活動を続けている人の思いに気付いている。</p> <p>②萬福寺に関わる実態調査を、相手や目的に応じた方法で実施している。</p> <p>③地域の文化遺産に対する意識の高まりは、地域の人、もの、ことと関わりながら探究的に学んだことによる成果であると気付いている。</p>	<p>①地域の文化遺産である萬福寺について、理想との隔たりから課題を設定し、解決に向けて自分にできることを具体的に考えている。</p> <p>②実態調査やその際の質問について、必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めている。</p> <p>③地域の文化遺産を継承するために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>④地域の伝統文化の継承に向けた自分の考えを、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。</p>	<p>①地域の文化遺産である萬福寺に関心をもち、自分の考えを見つめ直しながら、自分の意思で課題を解決しようとしている。</p> <p> 自分の考えや仮説をより良く修正しながら取り組む</p> <p>②地域の文化遺産の継承のために、萬福寺の方や友達の考えを生かしながら、協働して課題の解決に向けて取り組もうとしている。</p> <p> 異なる意見や他者の考えに価値を見出しながら取り組む</p> <p>③自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考え、前向きに解決策を探りながら取り組もうとしている。</p> <p> どんな状況でも前向きに解決策を探りながら取り組む</p>

### 3 指導と評価の計画（50時間）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 萬福寺の特徴について理解し、その良さや価値を実感しよう。(10)	○昨年度の6年生の取組から、解決に向けた今後の活動への見通しをもつ。				
	○萬福寺には他の寺院にはない特徴があることを理解する。 ・萬福寺の方からの情報収集 ・萬福寺の特徴に気付くための体験（中国様式、普茶料理、座禅体験等） ・萬福寺と他の寺院を比較・検討する。	①			・比較検討シート

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
	○萬福寺の特徴についてポスターにまとめ、グループごとにポスターセッションを行うことで萬福寺には他の寺院にはない特徴があることを理解する。			①	・振り返りカード
2 萬福寺の実態調査を通して、問題点の解決策を探ろう。(5)	○萬福寺に関わる実態調査を行うために、対象ごと(地域の方、宇治市の方、京都府の方)に質問項目や調査方法を検討する。		②		・実態調査シート
	○萬福寺に関わる実態調査を行う。	②			・実態調査シート
	○「価値ある萬福寺」という理想と、「認知度が低い」という隔たりから課題を設定し、自分にできることを具体的に考える。		①		・振り返りカード
3 「宇治と言えば『萬福寺』」にするために、できることを決定しよう。(10)	○課題を解決するための情報を収集し、今の自分たちにできることを根拠を明らかにして決定する。 ・萬福寺に関わる実態調査 ・萬福寺と平等院を比較するための平等院の見学 ・宇治市観光協会の方からの情報収集 ・萬福寺の方との連携会議		③		・行動観察 ・課題解決カード
4 魅力的なイベントを協力して準備し、実行しよう。(10)	○魅力的なイベントの開催に向けて、友達と協力して準備し、実行に移す。 ○イベントの成果と課題について、追調査を通して明らかにする。			②	・行動観察 ・課題解決カード
5 より魅力的なイベントを協力して準備し、実行しよう。(10)	○前回の経験をもとに、課題を解決するためにより良い方法を検討し、実行に移す。			③	・行動観察 ・課題解決カード
6 学習全体を振り返り、自己の成長や学びの価値、今後の展望について、5年生に継承する。(5)	○これまでの学習全体を振り返り、自身の地域の文化遺産に対する意識の変容を振り返る。	③			・振り返りカード
	○これまでの学習全体を振り返り、成果と課題、今後の展望を明らかにして5年生にプレゼンテーションで伝える。		④		・プレゼンテーション